

九州経済国際化データ2016

Kyushu economic internationalization data



< 概要版 >

2016年12月

経済産業省 九州経済産業局

九州経済国際化データ2016(ポイント)

アジア度

- 「輸入額」を除く5項目(「輸出額」「海外進出企業件数」「外国人入国者数」「国際航空路線数」「姉妹提携自治体数)」について、九州の「アジア度」は全国よりも高く、九州経済とアジアとの結びつきの強さがうかがえる。

貿易

- 2015年の九州の貿易額は、輸出が5兆9,566億円(前年比3.2%増)で3年連続で前年より増加、輸入は5兆6,788億円(前年比16.6%減)で6年ぶりに前年より減少。輸出については、メキシコや香港向けが増加し、輸入については、サウジアラビアやカタールからが減少した。
- 2015年のポイントとしては、半導体等電子部品などが好調で輸出額が増加。好調だった2008年を超えて過去最高となった。一方、輸入額は資源相場の下落を受けて原油及び粗油の輸入額が減少するなどして大幅減。結果、5年ぶりに貿易収支が黒字化した。

対外投資・対内投資

- 2015年までの九州企業の海外進出累計件数は、974件。このうち2015年の新規海外進出件数は33件で、前年比3.1%増となっている。進出先別(累計件数)ではアジアが757件と8割弱を占めており、中でも中国(359件)やASEAN(228件)への進出が多い。
- 外資系企業の九州への進出企業数は2014年時点で440社で、県別では福岡県が303社と最も多い。九州の主な外資系企業の国籍は、米国199社、ドイツ59社、フランス35社、スイス、韓国22社等となっている。

海外との人的交流

- 2015年に九州へ入国した外国人数は205万人(前年比38.4%増)と前年から大幅に増加し、初めて200万人を超えた。国籍別では、韓国が59.4%と最も多く、次いで台湾、中国等となっている。九州は全国に比べてアジアからの入国者数の割合が高く、特に韓国については、全体の3割近くが九州へ入国している。
- 2015年の九州の留学生は17,365人(前年比2.6%減)で、全国比は11.4%。一方で、九州の企業等に就職した留学生は769人と前年より増加したものの、全国比は4.9%にとどまった。

トピックス:熊本地震の影響

- 2016年4月中旬に発生した熊本地震による九州の輸出動向への影響について、輸出総額及び品目別輸出額の前年同月比を見てみると、地震が発生した4月については、各品目とも大きく減少し、輸出総額についても前年同月比▲12.9%となった。5月以降については自動車はプラスに転じたものの、二輪自動車は影響が長く続いた。
- 2016年4月の熊本地震の影響により、4~6月は九州の宿泊者数は前年同月に比べ、大きく減少。特に、外国人宿泊者数が大きく減少。その後、九州観光支援のための割引付旅行助成制度(九州ふっこう割)や自治体及び各団体等の誘致活動などにより、外国人宿泊者も含め、宿泊者数全体として震災以前の水準に回復。しかしながら、県別で見ると、熊本県では前年を大きく下回る状況が続いている。

九州経済国際化データ2016 コンテンツ

アジア度

.....p1

- ・九州の特徴(アジアとの経済交流) p1

貿易

.....p2

- ・九州の貿易(総括) p2
- ・九州の品目別貿易動向 p3
- ・九州の国・地域別貿易動向 p4
- ・九州の貿易収支 p5
- ・2015年の九州の貿易動向(ポイント) p6

対外投資・対内投資

.....p9

- ・九州企業の海外進出 p9
- ・外資系企業の対九州投資 p11

海外との人的交流

.....p12

- ・九州への外国人入国者 p12
- ・九州の留学生 p13

トピックス:熊本地震の影響

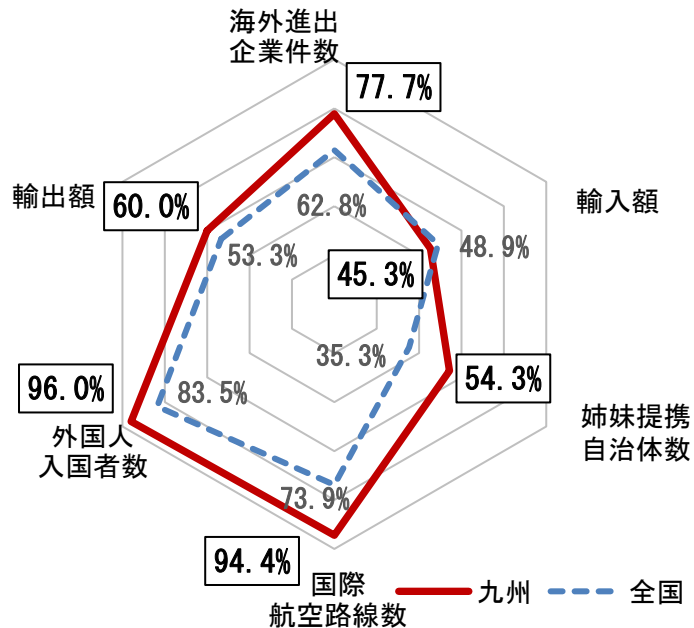
.....p14

- ・輸出動向 p14
- ・観光関連 p15

九州の特徴(アジアとの経済交流)

九州とアジア地域の経済交流の深まりを見るため、「輸出額」「輸入額」「海外進出企業件数」「外国人入国者数」「国際航空路線数」「姉妹提携自治体数」の6項目を取り上げ、経済活動全体に占める対アジアの割合を「アジア度」として算出。2015年の九州と全国の「アジア度」を比較すると、「輸入額」を除いた5項目について、九州の「アジア度」が全国よりも高く、九州経済はアジアとの結びつきが強いことがうかがえる。

九州と全国のアジア度の比較



項目	単位	九州 (2015年)			全国 (2015年)		
		アジア	世界	アジア度	アジア	世界	アジア度
海外進出企業件数	件	757	974	77.7%	18,300	29,125	62.8%
輸入額	億円	25,738	56,788	45.3%	383,585	784,055	48.9%
姉妹提携自治体数	件	100	184	54.3%	597	1,692	35.3%
国際航空路線数	路線	34	36	94.4%	263	356	73.9%
外国人入国者数	人	1,962,587	2,045,117	96.0%	16,446,943	19,688,247	83.5%
輸出額	億円	35,740	59,566	60.0%	403,287	756,139	53.3%

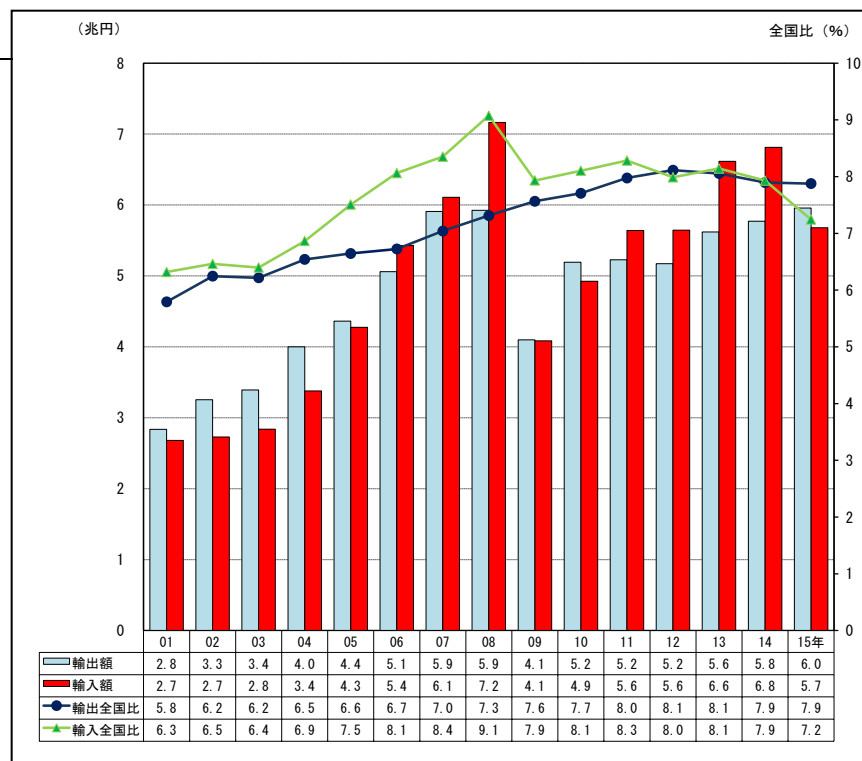
備考:「輸入額」「外国人入国者数」「輸出額」は2015年1年間の数値、「海外進出企業件数」「姉妹提携自治体数」は2015年までの累計件数、「国際航空路線数」は2015年時点で確認できるデータを掲載。

出所:財務省「貿易統計」、(公財)九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出2015」、東洋経済新報社「海外進出企業総覧2016(国別編)」、法務省「出入国管理統計年報」、JTBパブリッシング「JTB時刻表2016年3月号」、(一財)自治体国際化協会ホームページより九州経済産業局作成。

九州の貿易(総括)

- 2015年の九州の貿易額は、輸出が5兆9,566億円(前年比3.2%増)で3年連続で前年より増加、輸入は5兆6,788億円(前年比16.6%減)で6年ぶりに前年より減少。輸出については、メキシコ(寄与度+1.0%)や香港(同+0.9%)向けが増加し、輸入については、サウジアラビア(同▲3.2%)やカタール(同▲2.4%)からが減少した。
- 輸出から輸入を引いた貿易収支は+2,778億円で、5年ぶりに黒字に転じた。
- 九州の貿易額が全国に占める割合は、輸出は7.9%で前年と同程度だったのに対し、輸入は7.2%と、輸入額の減少に伴って低下した(前年は7.9%)。
- ★ 2015年は輸出額が過去最高。2015年の九州の輸出額は好調だった2008年を超えて過去最高となった。一方、輸入額は大幅に減少し、貿易収支が黒字化。
- ★ 鉱物性燃料の輸入額が減少。2015年は原油及び粗油や石油ガス類(液化天然ガス、液化石油ガス)の輸入額が大幅に減少。原油及び粗油については、前年よりも輸入量が増加したにもかかわらず、世界的な原油価格の下落などから輸入額減となった。

九州の対世界貿易額と全国比の推移

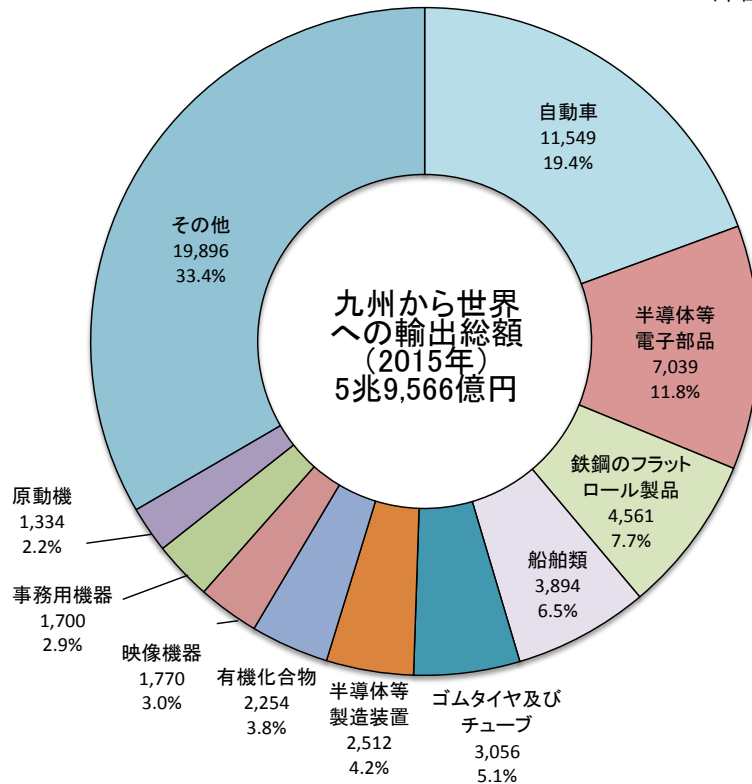


九州の品目別貿易動向

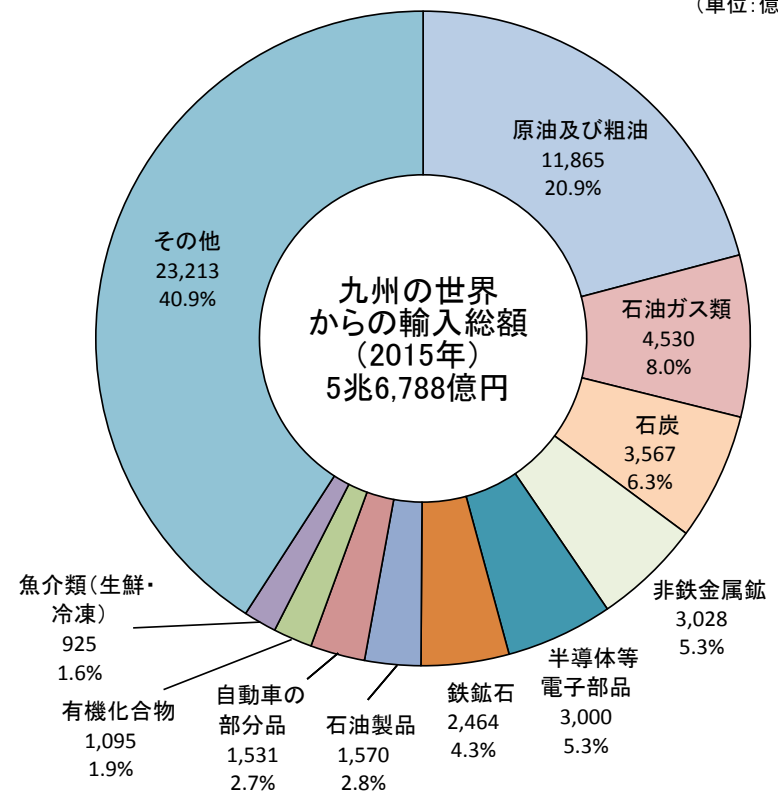
○九州から世界への輸出品目は、輸出額が多い順に、自動車、半導体等電子部品、鉄鋼のフラットロール製品、船舶類、ゴムタイヤ及びチューブとなり、この5品目で全体の5割程度を占める。輸出額増に最も大きく寄与した品目は半導体等電子部品(寄与度+1.8%)で、香港向けなどが好調で前年比+17.5%と大きく伸長。

○輸入品目は、原油及び粗油、石油ガス類、石炭などの鉱物性燃料が3割以上を占めており、非鉄金属鉱などの原材料や半導体等電子部品が続いている。輸入額の減少に最も大きく寄与した品目は原油及び粗油(同▲10.2%)で、サウジアラビアなどからの輸入が減少し、前年を大きく下回った。一方、輸入額の増加に最も大きく寄与した品目は半導体等電子部品(同+0.3%)で、台湾からの輸入が増加した。

九州から世界への輸出品目(小分類) (単位:億円、%)



九州の世界からの輸入品目(小分類) (単位:億円、%)

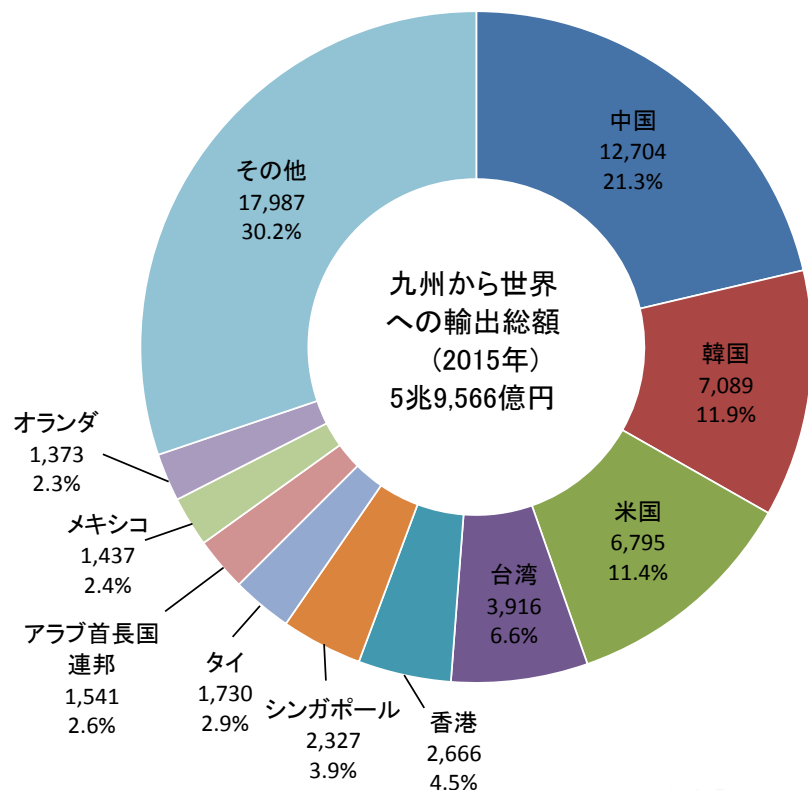


九州の国・地域別貿易動向

- 九州の最大の貿易相手国は中国であり、米国、韓国が続いている(貿易総額ベース)。
- 2015年の九州の最大の輸出相手国は原動機等が好調だった中国で、次いで韓国、米国等となっている。
- 2015年の九州の最大の輸入相手国は中国で、次いでオーストラリア、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、米国等となっており、資源国が上位に並んでいる。

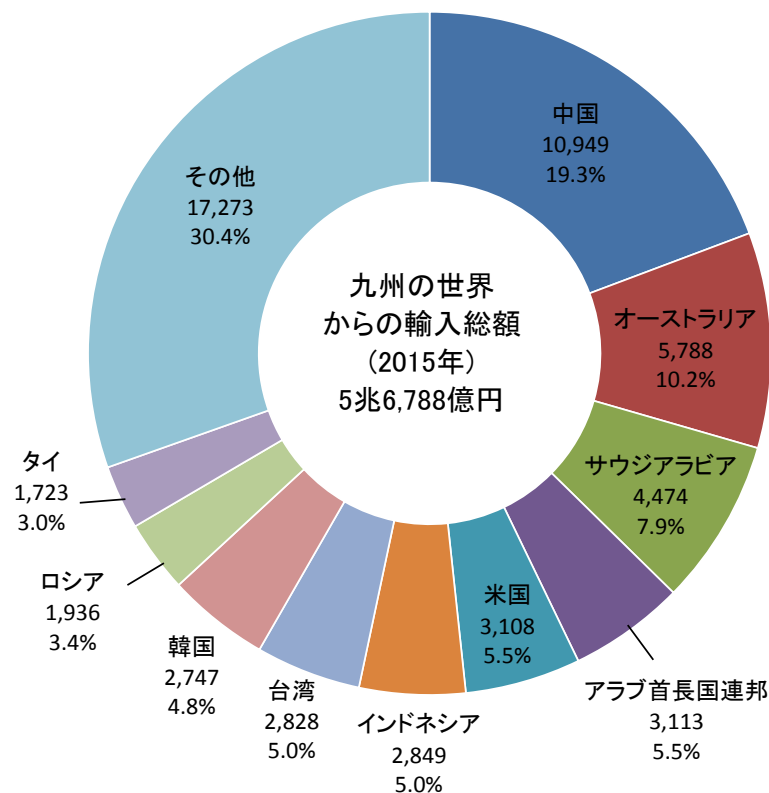
九州の輸出相手国・地域

(単位:億円、%)



九州の輸入相手国・地域

(単位:億円、%)



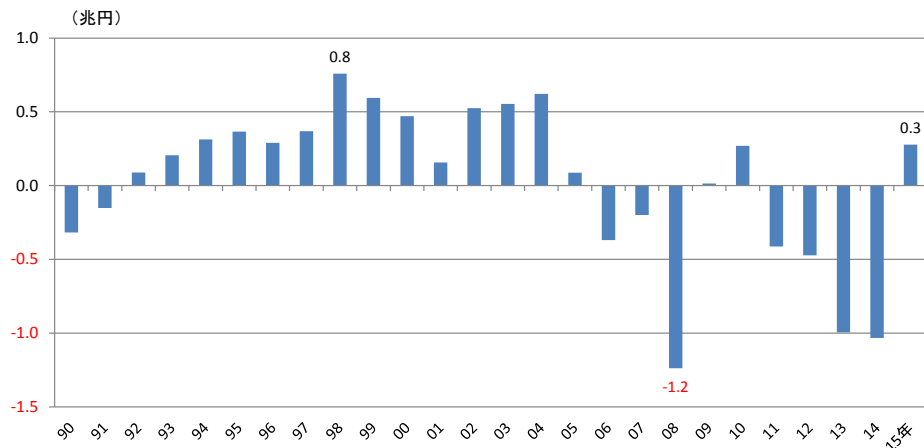
出所:財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成

九州の貿易収支

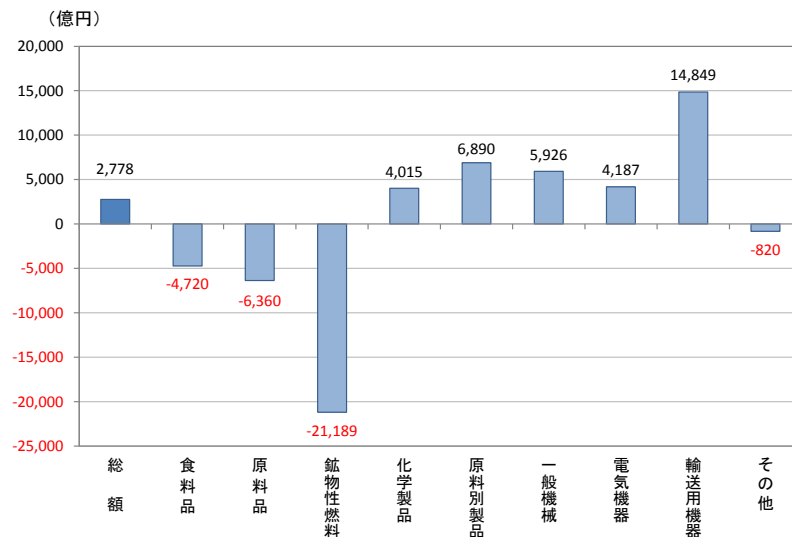
○2015年の九州の貿易収支は+2,778億円で、5年ぶりに輸出超過となった(全国は5年連続で輸入超過)。

○九州の貿易収支について品目(大分類)別に見ると、自動車をはじめとする輸送用機器等が輸出超過となったことに加え、鉱物性燃料の輸入超過幅が前年に比べて縮小したことなどから、輸出が輸入を上回った。

九州の貿易収支の推移



九州の品目(大分類)別貿易収支(2015年)



九州の相手国・地域別貿易収支(2015年)

(単位: 億円)

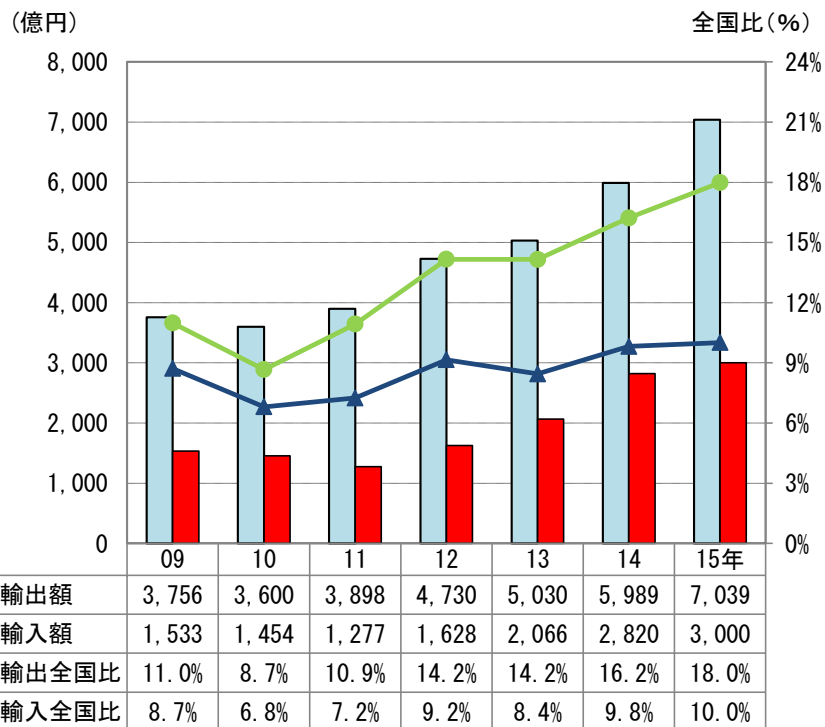
相手国・地域	輸出超過額	相手国・地域	輸入超過額
韓国	4,341	オーストラリア	▲ 4,955
米国	3,687	サウジアラビア	▲ 3,580
香港	2,568	インドネシア	▲ 1,963
シンガポール	1,963	ロシア	▲ 1,583
中国	1,755	アラブ首長国連邦	▲ 1,571
九州の貿易収支額(2015年) +2,778億円			

2015年の九州の貿易動向(ポイント①)

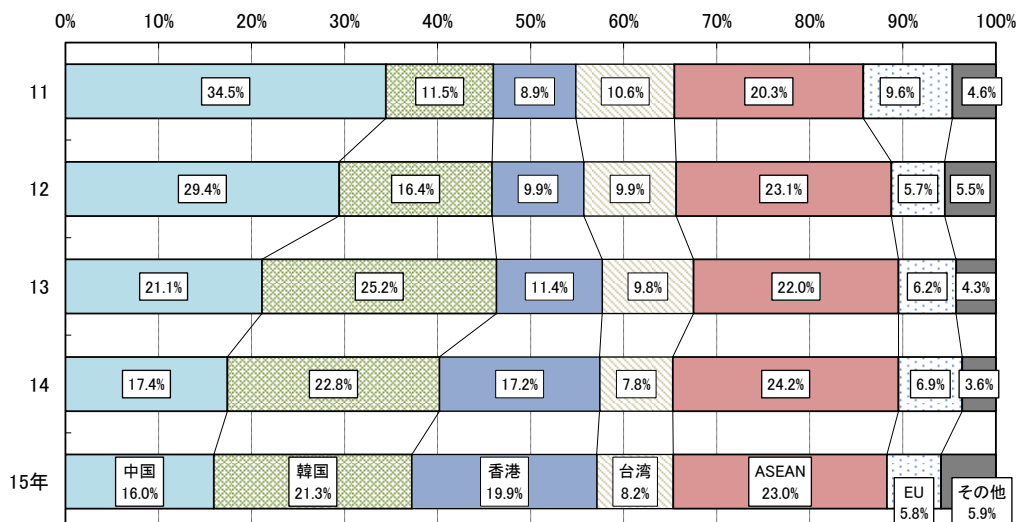
○2015年の九州の輸出額増に最も寄与したのは半導体等電子部品(寄与度+1.8%)。2015年の輸出額は7,039億円で前年比17.5%増と大幅に伸長。輸出先は韓国が最も多く、次いで香港、中国等となっている。

○輸出先別の寄与度については、2015年は香港の寄与が最も大きく、ベトナム、韓国等が続いている。

九州の半導体等電子部品の貿易額推移



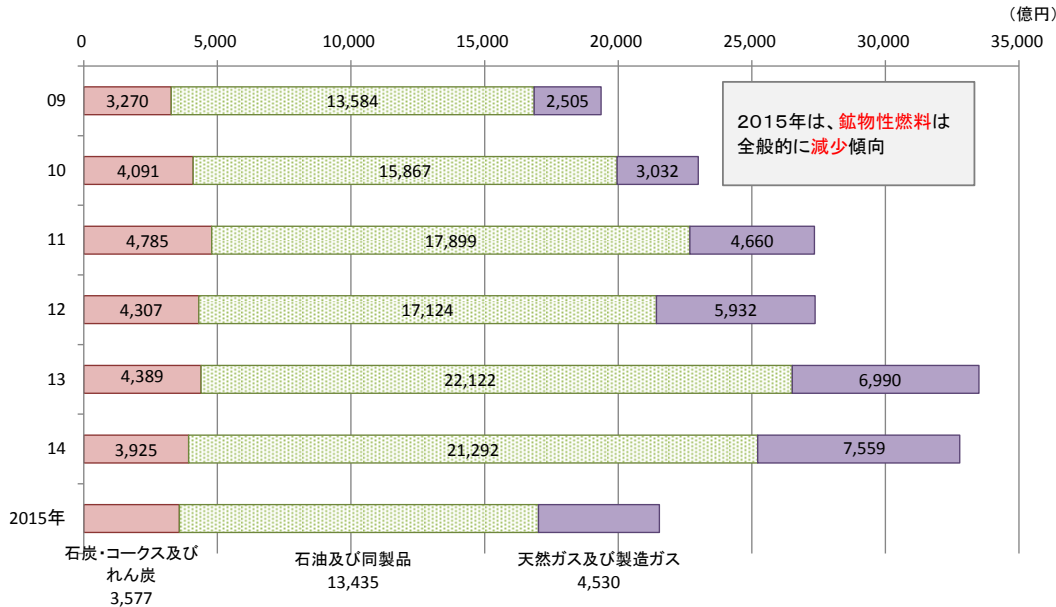
九州の半導体等電子部品の主な輸出相手国・地域



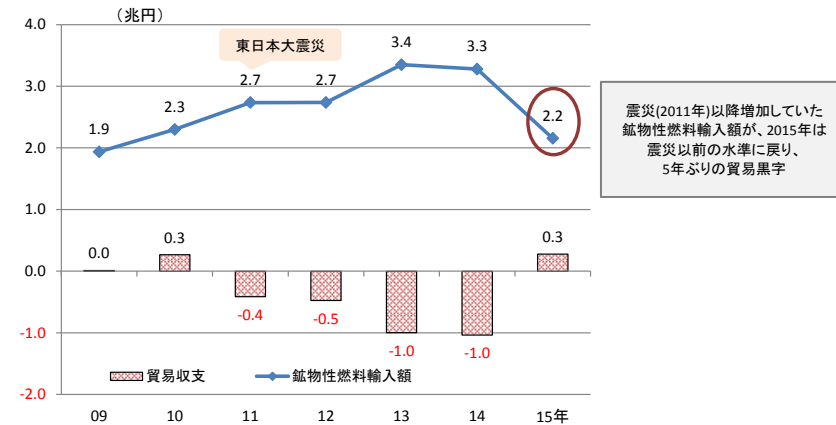
2015年の九州の貿易動向(ポイント②-1)

- 2011年の東日本大震災以降、我が国では火力発電用燃料として鉱物性燃料の需要が増加。九州においても鉱物性燃料の輸入額が増加し、それともなって貿易収支が赤字となる状況が続いていた。
- 2015年の九州の鉱物性燃料の輸入額は2兆1,541億円(前年比34.3%減)と、前年に比べて大幅に減少。結果、貿易収支の5年ぶりの黒字化につながった。品目別では、石炭・コークス及びれん炭、石油及び同製品、天然ガス及び製造ガスのいずれも輸入額が前年を下回った。

九州における鉱物性燃料の品目別輸入額の推移



九州における鉱物性燃料輸入額と貿易収支の推移

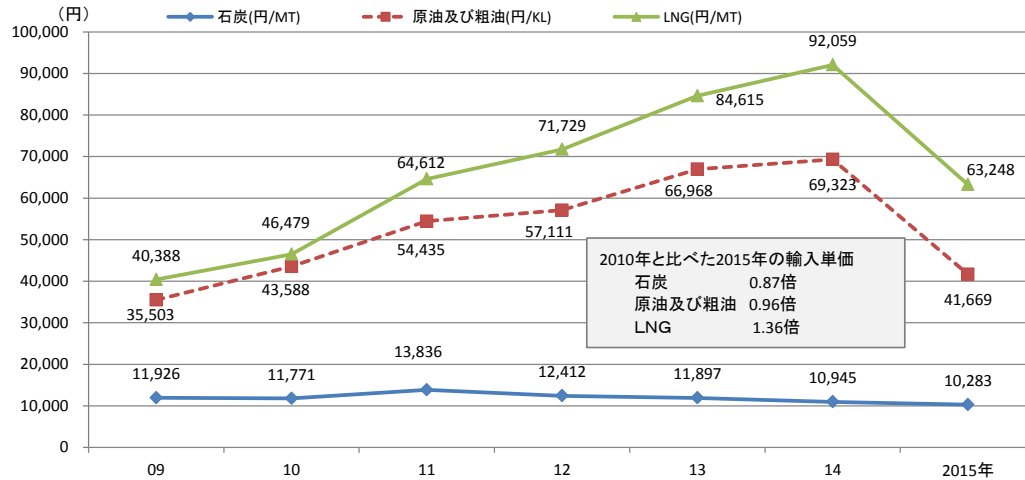


2015年の九州の貿易動向(ポイント②-2)

○鉱物性燃料の輸入単価については、石炭はほぼ横ばい傾向。一方、原油及び粗油とLNGについては2014年までは上昇を続けていたが、2015年は大きく下落。世界的な資源相場下落が輸入単価の引き下げにつながったことがうかがえる。

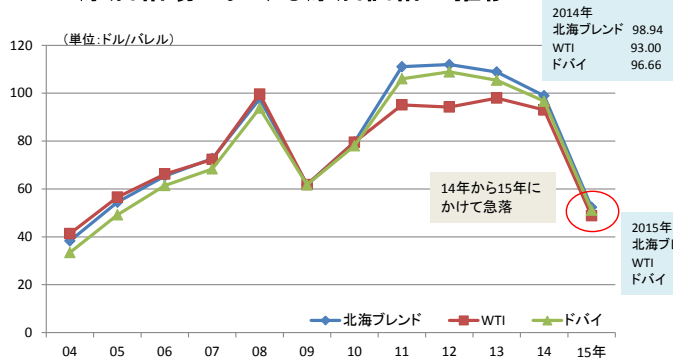
○こうした情勢を受け、原油及び粗油については、2015年は輸入数量はやや増加したにもかかわらず、輸入額は1兆1,865億円(前年比36.8%減)と前年を大きく下回った。また、LNGについても、2015年の輸入額が3,596億円(前年比40.2%減)と、前年より大幅に減少した。原油相場も2014年から2015年にかけて大幅に下落した。

九州の主な鉱物性燃料の輸入単価の推移



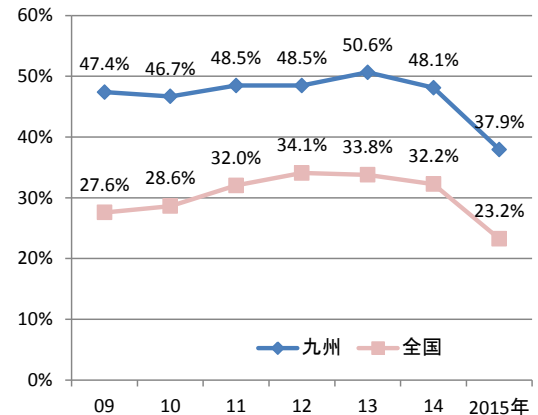
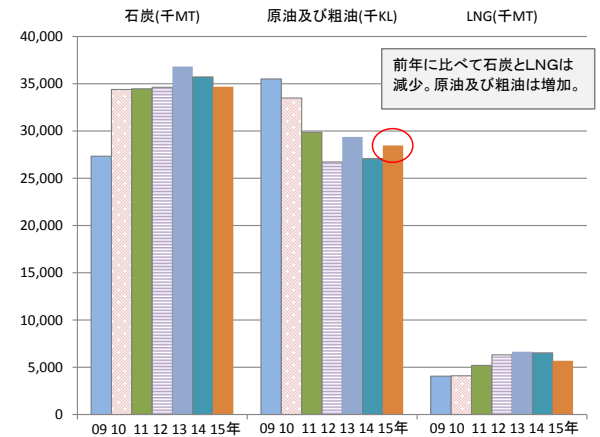
備考:それぞれの輸入単価は各年の輸入金額を輸入数量で割った値。

原油相場における原油価格の推移



九州と全国の輸入総額に占める 鉱物性燃料の割合

九州の主な鉱物性燃料の輸入数量の推移



出所:内閣府「月刊海外経済データ」より九州経済産業局作成。

出所:財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成

九州企業の海外進出①

- 2015年までの九州企業の海外進出累計件数は、974件となっている。このうち2015年の新規海外進出件数は33件で、前年比3.1%増(1件増)となっている。全国の2015年時点の海外進出累計件数は29,125件で、うち新規海外進出件数は435件である。
- 九州企業の海外進出について、進出先別の累計件数ではアジアが757件と8割弱を占めており、中でも中国(359件)やASEAN(228件)への進出が多い。全国では進出件数に占めるアジアの割合が6割強となっており、九州は全国に比べて進出件数に占めるアジアの割合が高い。

九州企業の国・地域別海外進出状況

(単位:件、%)

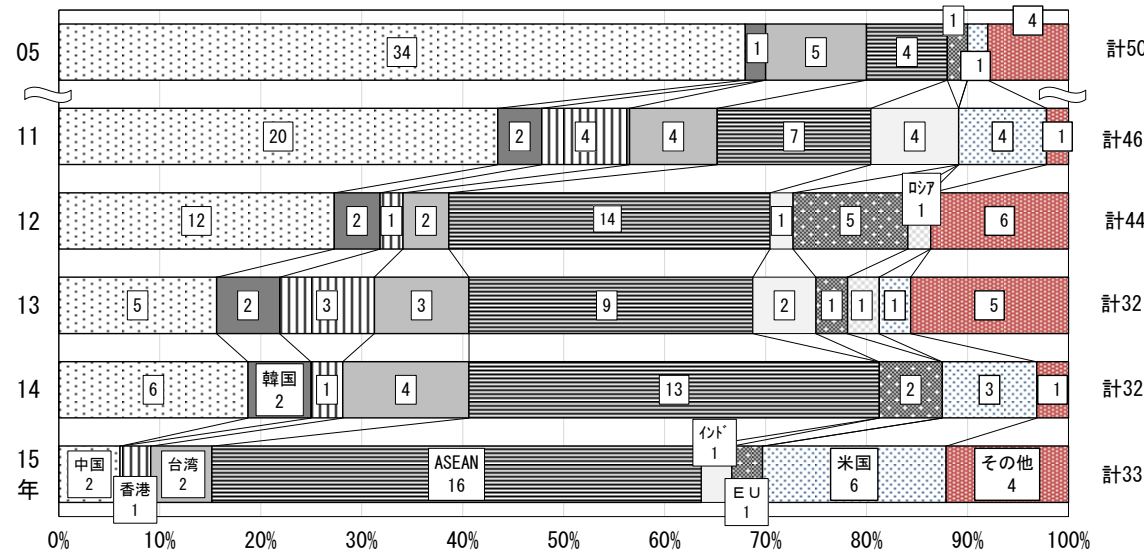
	九州												九州計	全国		
	10年		11年		12年		13年		14年		15年			不明	2015年時点	
	件数	構成比(%)	件数	構成比(%)	件数	構成比(%)	件数	構成比(%)	件数	構成比(%)	件数	構成比(%)			掲載ベース	構成比(%)
世界合計	56	100.0	46	100.0	44	100.0	32	100.0	32	100.0	33	100.0	38	974	29,125	100.0
アジア	48	85.7	41	89.1	33	75.0	24	75.0	26	81.3	23	69.7	25	757	18,300	62.8
中国	30	53.6	20	43.5	12	27.3	5	15.6	6	18.8	2	6.1	9	359	6,825	23.4
韓国	3	5.4	2	4.3	2	4.5	2	6.3	2	6.3	-	-	1	46	922	3.2
香港	2	3.6	4	8.7	1	2.3	3	9.4	1	3.1	1	3.0	1	39	1,298	4.5
台湾	3	5.4	4	8.7	2	4.5	3	9.4	4	12.5	2	6.1	5	57	1,055	3.6
ASEAN	8	14.3	7	15.2	14	31.8	9	28.1	13	40.6	16	48.5	8	228	7,351	25.2
インド	2	3.6	4	8.7	1	2.3	2	6.3	-	-	1	3.0	1	24	751	2.6
その他アジア	-	0.0	-	0.0	1	2.3	-	0.0	-	0.0	1	3.0	-	4	98	0.3
EU	2	3.6	-	-	5	11.4	1	3.1	2	6.3	1	3.0	7	68	3,763	12.9
ロシア	-	-	-	-	1	2.3	1	3.1	-	-	-	-	1	4	186	0.6
米国	5	8.9	4	8.7	-	-	1	3.1	3	9.4	6	18.2	3	99	3,720	12.8
オーストラリア	-	-	-	-	-	-	1	3.1	-	-	-	-	1	5	558	1.9
その他	1	1.8	1	2.2	5	11.4	4	12.5	1	3.1	3	9.1	1	41	2,598	8.9

九州企業の海外進出②

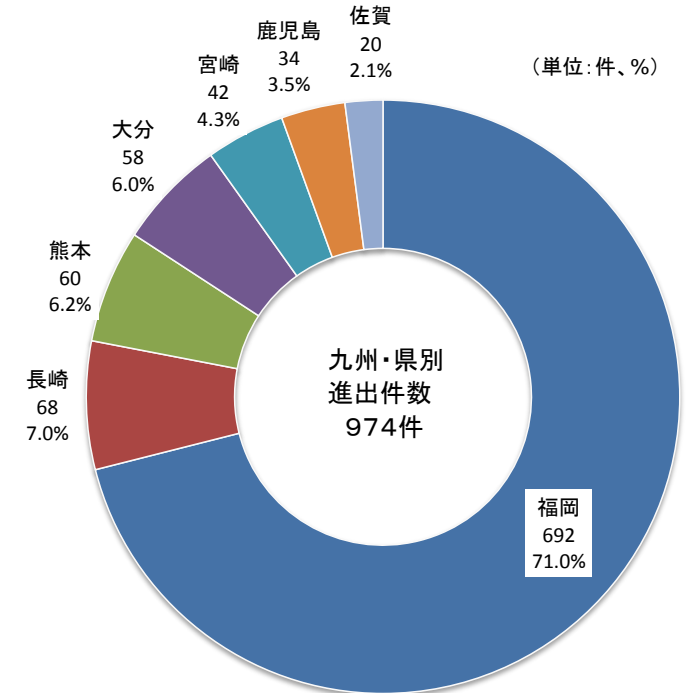
- 新規進出件数では、2011年頃までは中国が最も多かったが、近年ではASEANが中国を上回っており、2015年も全体の半数近くがASEANへの進出だった。
- 進出年別では、2004年(56件)をピークとしてその後は若干減少傾向にあるものの、毎年30～40件台の新規進出が続いている。
- 進出企業を県別にみると、福岡県が約7割と最も多く、以下長崎県、熊本県が続いている。

海外進出先の推移(各年の新規進出件数)

(単位: 件)



九州各県の海外進出企業件数(2015年累計)



外資系企業の対九州投資

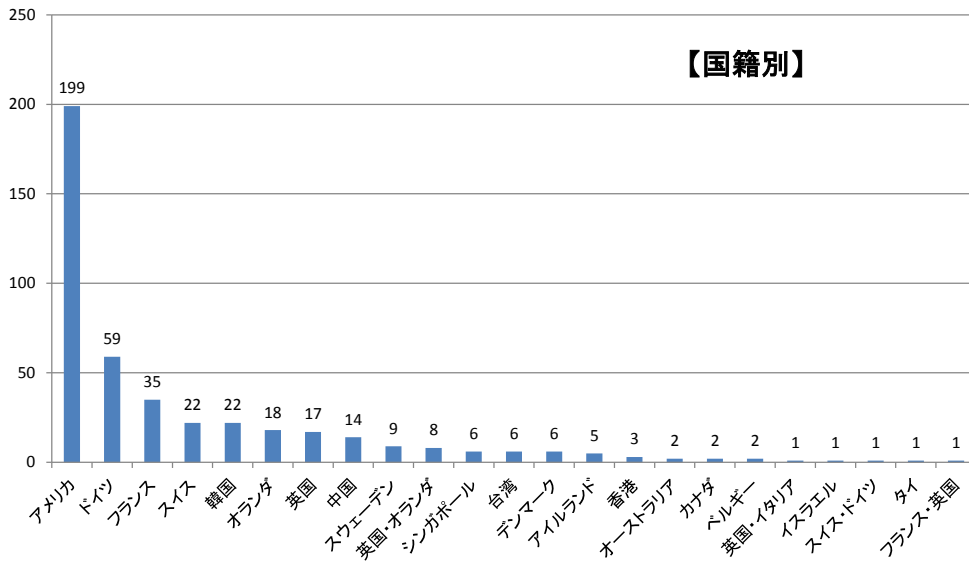
○外資系企業(支店等含む)の九州への進出企業数は、2014年時点で440社で、県別にみると、福岡県が303社と最も多く、次いで熊本県、鹿児島県となっている。

○九州の主な外資系企業(支店等含む)の国籍は、米国199社、ドイツ59社、フランス35社、スイス、韓国22社の順。

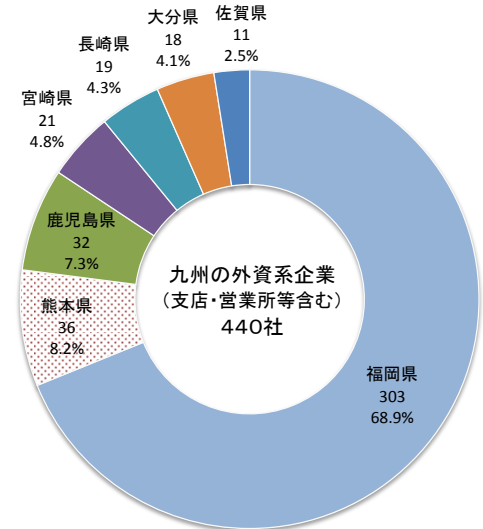
○最近(2010年以降)の進出企業についても、米国やヨーロッパ、韓国からの進出が多い。

九州の外資系企業(支店・営業所等含む)(2014年) <全440社>

【国籍別】



【県別】



【最近(2010年以降)の進出企業 →】

県	設立年(外資参入)	親企業の国籍	九州の拠点	主要製品・サービス
福岡県	2010	韓国	本社	スポーツ用品等の企画・製造・インターネット通販
福岡県	2010	アメリカ	支店	投資運用業務
福岡県	2010	アメリカ	営業所	資産運用業務
福岡県	2010	韓国	本社	半導体やロボットなどについての研究・開発
福岡県	2011	韓国	支店	ケーブルテレビ受信機等製造販売
福岡県	2011	デンマーク	営業所	医療機器輸入販売
福岡県	2012	アメリカ	オフィス	GISソフトウェアの輸出入、販売、開発、及び関連サービス(保守、トレーニング、コンサルティング、出版等)の提供
福岡県	2012	アメリカ	オフィス	測量機器の製造・販売
福岡県	2012	韓国	支店	太陽光発電モジュールの輸入販売
福岡県	2012	スイス	サービスステーション	製粉等食品加工設備
佐賀県	2012	アメリカ	フルフィルメントセンター	オンラインストアの運営サポート
福岡県	2013	オランダ	支店	国際航空旅客
福岡県	2013	イギリス・オランダ	営業所	グリース、熱処理油、防錆油、工作油剤、洗浄油、潤滑油、粘度計校正用標準液などの製造及び販売
大分県	2013	アメリカ	パッケージングセンター	半導体のパッケージング技術開発
福岡県	2014	中国	本社	クラウドマーケティングシステムの提供

九州への外国人入国者

○2015年に九州へ入国した外国人数は205万人(前年比38.4%増)と初めて200万人を超えた。国籍別では、韓国が59.4%と最も多く、次いで台湾(13.6%)、中国(9.4%)等となっている。九州は全国に比べてアジアからの入国者数の割合が高く、特に韓国については、全体の3割近くが九州へ入国している。

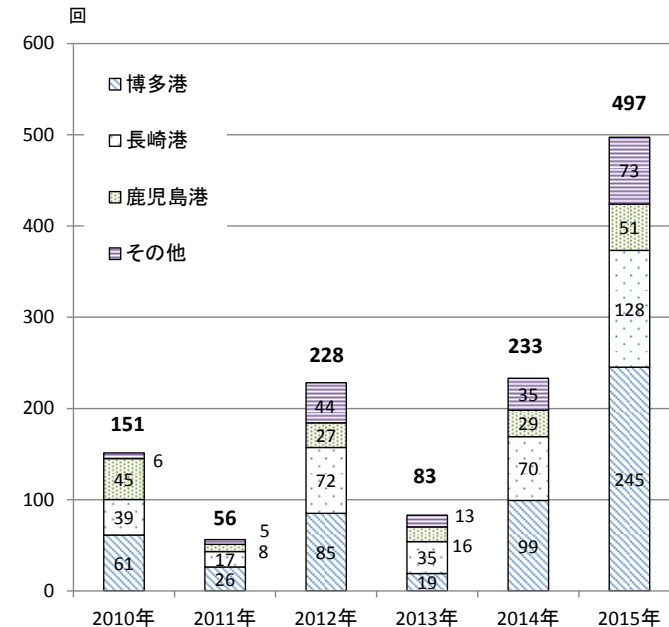
○九州へのクルーズ船の寄港数については、近年増加傾向にあり、2015年は九州全体で497回と、2014年の233回から倍増。特に増加が目立つ博多港は、2015年のクルーズ船の寄港数が全国第1位(第2位は長崎港)となった。

九州と全国の外国人入国者数の動向

(単位:人)

	九州				全国							
	2015年 入国者数	構成比 (%)	伸び率 (%)	全国比 (%)	2014年 入国者数	構成比 (%)	伸び率 (%)	2014年 入国者数	構成比 (%)			
総数	2,045,117	100.0	38.4	10.4	1,477,223	100.0		19,688,247	100.0	39.1	14,150,185	100.0
アジア	1,962,587	96.0	40.9	11.9	1,393,280	94.3	16.4	16,446,943	83.5	44.0	11,419,147	80.7
韓国	1,215,372	59.4	42.0	28.6	855,802	57.9	21.6	4,252,389	21.6	41.0	3,016,112	21.3
中国	191,397	9.4	34.6	4.3	142,174	9.6	22.8	4,497,238	22.8	77.3	2,536,571	17.9
台湾	278,618	13.6	31.5	7.8	211,846	14.3	18.2	3,576,210	18.2	24.9	2,864,287	20.2
香港	141,789	6.9	70.6	9.6	83,133	5.6	7.5	1,473,141	7.5	63.2	902,480	6.4
ベトナム	12,454	0.6	50.4	6.3	8,282	0.6	1.0	197,270	1.0	45.4	135,686	1.0
タイ	60,849	3.0	41.3	7.4	43,068	2.9	4.2	822,037	4.2	20.6	681,743	4.8
フィリピン	15,500	0.8	25.8	4.0	12,320	0.8	2.0	388,896	2.0	27.6	304,871	2.2
インドネシア	4,448	0.2	-0.5	2.1	4,470	0.3	1.1	210,412	1.1	28.1	164,246	1.2
インド	2,196	0.1	35.2	2.0	1,624	0.1	0.6	108,635	0.6	14.1	95,236	0.7
マレーシア	7,306	0.4	14.2	2.4	6,396	0.4	1.6	309,168	1.6	21.6	254,232	1.8
その他のアジア	32,658	1.6	35.1	5.3	24,165	1.6	3.1	611,547	3.1	31.9	463,683	3.3
ヨーロッパ	34,778	1.7	13.4	2.6	30,669	2.1	6.7	1,312,880	6.7	18.6	1,106,801	7.8
アフリカ	870	0.0	7.1	2.4	812	0.1	0.2	36,005	0.2	10.0	32,737	0.2
北米	33,365	1.6	-14.6	2.5	39,072	2.6	6.8	1,343,018	6.8	17.1	1,146,674	8.1
アメリカ	23,346	1.1	-24.3	2.2	30,857	2.1	5.4	1,062,716	5.4	15.4	920,802	6.5
その他北米	10,019	0.5	22.0	3.6	8,215	0.6	1.4	280,302	1.4	24.1	225,872	1.6
南米	834	0.0	2.5	0.7	814	0.1	0.6	115,609	0.6	24.6	92,819	0.7
オセアニア	12,643	0.6	0.7	2.9	12,554	0.8	2.2	432,825	2.2	23.2	351,206	2.5
オーストラリア	10,802	0.5	-0.6	2.9	10,868	0.7	1.9	378,196	1.9	24.1	304,780	2.2
その他オセアニア	1,841	0.1	9.2	3.4	1,686	0.1	0.3	54,629	0.3	17.7	46,426	0.3
無国籍	40	0.002	81.8	4.1	22	0.001	0.0	967	0.00	20.7	801	0.01

九州への外国クルーズ船の寄港状況



↑ 出所:九州地方整備局「九州クルーズレポート(11月号)」より九州経済産業局作成

← 備考:クルーズ船による「船舶観光上陸」(出入国管理及び難民認定法第14条の2)は含まない。

出所:法務省「出入国管理統計」より九州経済産業局作成

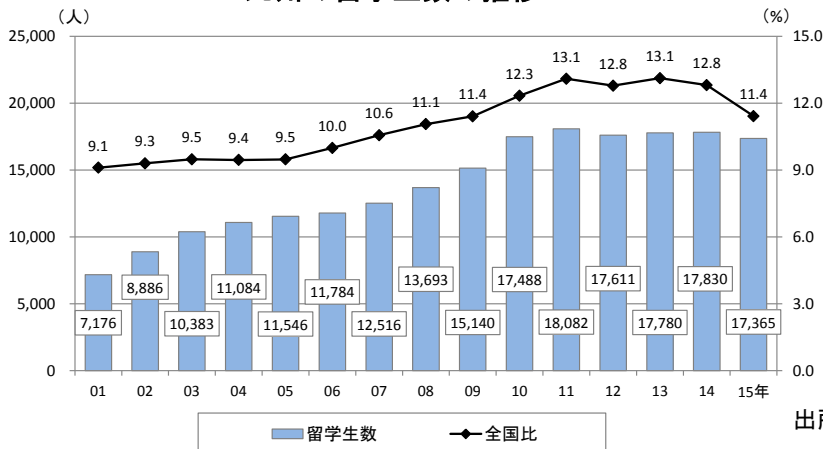
九州の留学生

○2015年の九州の留学生は17,365人(前年比2.6%減)で、全国比は11.4%。国籍別では中国が45.4%と最も多く、次いでベトナム(15.5%)、ネパール(10.0%)等となっており、アジアからの留学生が9割以上を占めている。

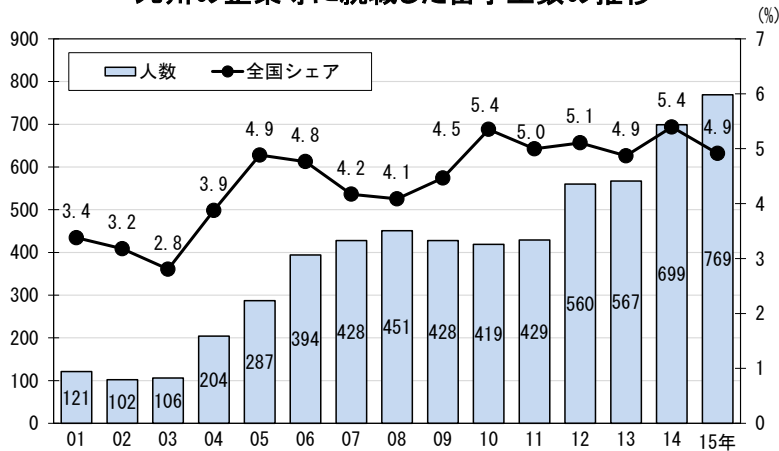
○2015年に日本企業等に就職した留学生は全国で15,657人。就職先での職務内容については、これまで「通訳・翻訳」が最も多かったが、2015年は「販売・営業」がこれを上回るなど新しい傾向も見られた。

○2015年に九州の企業等に就職した留学生は769人と前年より増加したものの、全国比は4.9%にとどまっている。

九州の留学生数の推移



九州の企業等に就職した留学生数の推移



出所: (独)日本学生支援機構「平成27年度外国人留学生在籍状況調査結果」より九州経済産業局作成

出所: 法務省入国管理局「平成27年における留学生の日本企業等への就職状況について」より九州経済産業局作成

九州の国籍別留学生の受け入れ状況

(単位: 人、%)

国・地域	九州			全国	
	人数	構成比	全国比	人数	構成比
アジア	16,152	93.0%	11.6%	138,930	91.4%
中国	7,883	45.4%	10.5%	74,921	49.3%
ベトナム	2,685	15.5%	13.3%	20,131	13.2%
ネパール	1,729	10.0%	19.9%	8,691	5.7%
韓国	1,571	9.0%	11.7%	13,397	8.8%
インドネシア	542	3.1%	18.1%	2,995	2.0%
タイ	400	2.3%	13.8%	2,904	1.9%
台湾	325	1.9%	5.8%	5,610	3.7%
バングラディッシュ	208	1.2%	20.5%	1,015	0.7%
マレーシア	165	1.0%	6.7%	2,460	1.6%
その他アジア	644	3.7%	9.5%	6,806	4.5%
中東	111	0.6%	7.3%	1,520	1.0%
アフリカ	234	1.3%	16.2%	1,447	1.0%
オセアニア	68	0.4%	11.7%	581	0.4%
北米	224	1.3%	8.9%	2,521	1.7%
中南米	91	0.5%	7.2%	1,257	0.8%
欧州	485	2.8%	8.4%	5,804	3.8%
その他(無国籍)				2	0.0%
計	17,365	100.0%	11.4%	152,062	100.0%

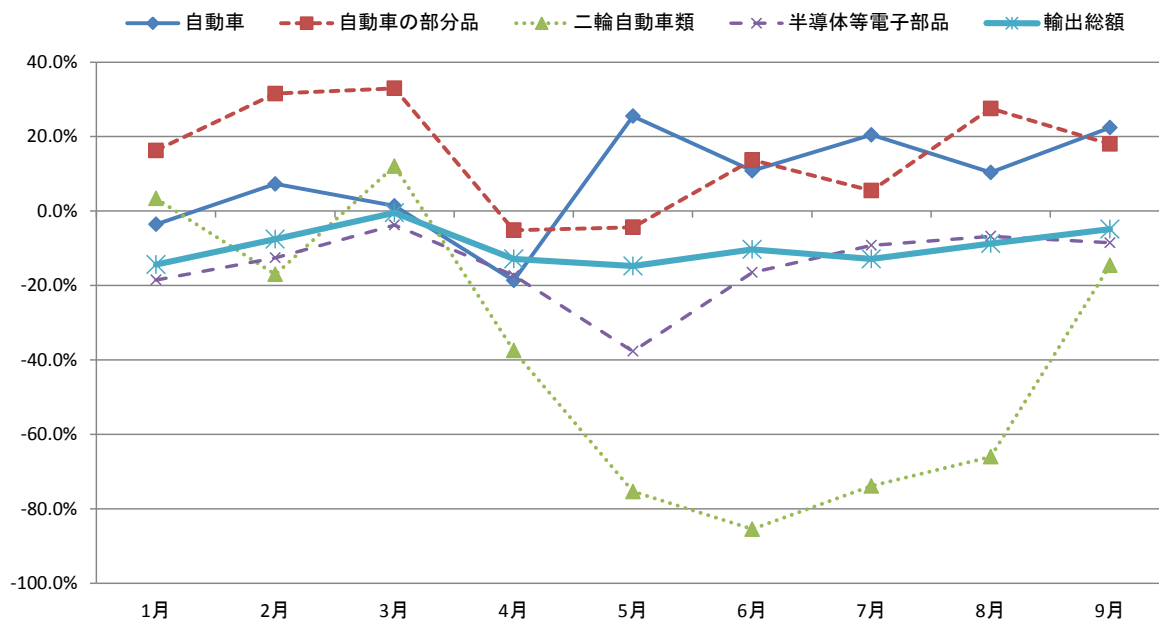
出所: (独)日本学生支援機構「留学生調査(2015年5月1日現在)」のデータより九州経済産業局作成

【トピックス①】熊本地震の影響（輸出動向）

○2016年4月中旬に発生した熊本地震による九州の輸出動向への影響について、輸出総額及び品目別輸出額の前年同月比を見てみると、地震が発生した4月については、各品目とも大きく減少し、輸出総額についても前年同月比▲12.9%となった。

○翌5月については、地震の影響が大きく残っており、自動車部品、二輪自動車及び半導体等電子部品については、輸出額が前年同月を下回り、特に二輪自動車及び半導体等電子部品については、4月よりもマイナス幅が拡大した。一方、自動車については、前年同月比+25.5%と大幅に増加し、品目により明暗が分かれる結果となった。

○6月以降は徐々に回復傾向となったが、九州における生産拠点が被災した二輪自動車については、9月時点までマイナスが続いた。



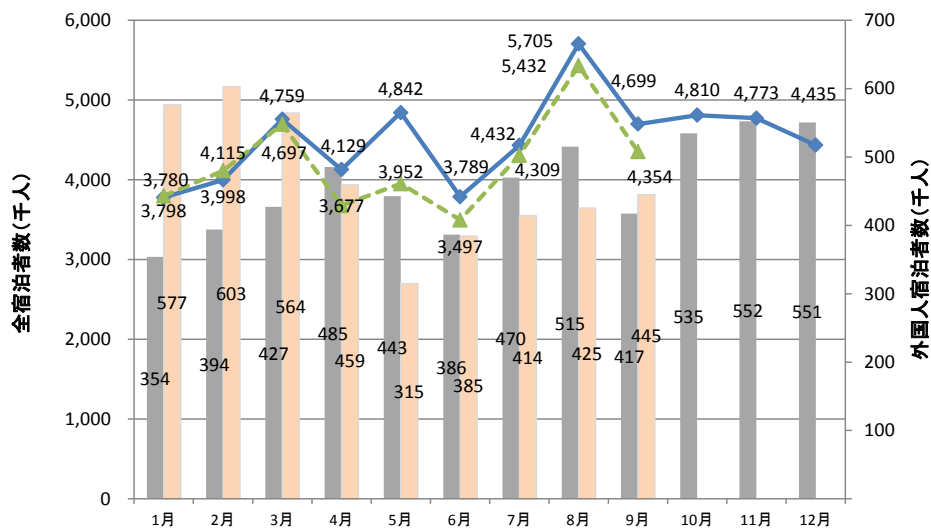
九州の輸出総額及び品目別輸出額の前年同月比推移(2016年1～9月)

出所:財務省「貿易統計」より
九州経済産業局作成

品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
自動車	-3.6%	7.3%	1.4%	-18.7%	25.5%	10.8%	20.5%	10.4%	22.4%
自動車の部分品	16.3%	31.6%	33.0%	-5.1%	-4.4%	13.7%	5.5%	27.6%	18.0%
二輪自動車類	3.4%	-17.0%	12.1%	-37.5%	-75.4%	-85.5%	-73.9%	-66.0%	-14.6%
半導体等電子部品	-18.5%	-12.5%	-3.8%	-17.3%	-37.7%	-16.5%	-9.2%	-6.8%	-8.5%
輸出総額	-14.4%	-7.5%	-0.5%	-12.9%	-14.8%	-10.3%	-12.9%	-8.7%	-4.8%

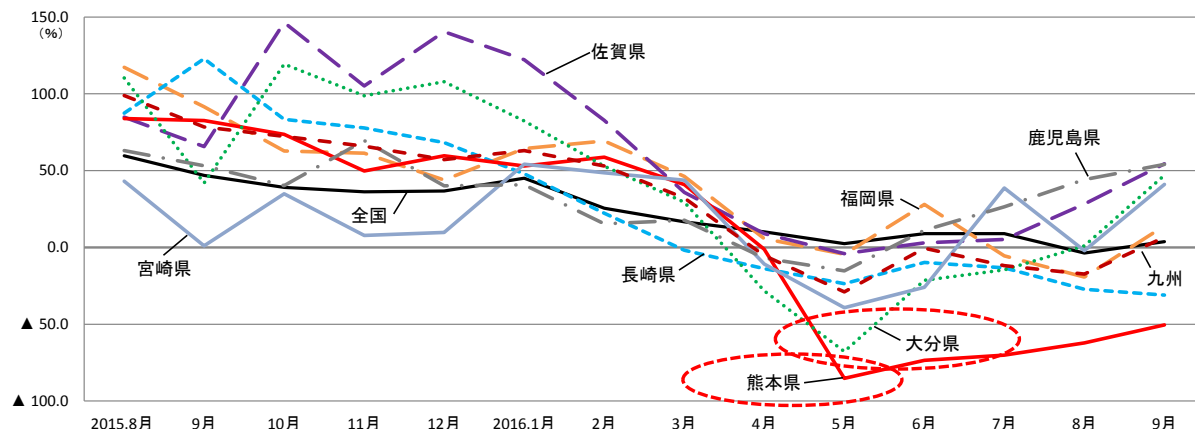
【トピックス②】熊本地震の影響（観光関連）

- 2016年4月の熊本地震の影響により、4月～6月は九州の宿泊者数は前年同月に比べ、大きく減少した。特に、外国人宿泊者数が大きく減少した。
- しかし、九州観光支援のための割引付旅行助成制度（九州ふっこう割）や自治体及び各団体等の誘致活動などにより、宿泊者数全体としては震災以前にまで回復傾向にある。また、外国人宿泊者数についても震災以前に回復した。
- なお、九州各県別でみると、特に、熊本県、大分県が地震の影響を受け、大きく落ち込んだものの、大分県については、震災以前に回復した。しかし、熊本県は依然として前年水準を大きく下回る状況が続いている。



←九州における外国人延べ宿泊者数の推移 (2015年1月～2016年9月)

↓九州における各県別外国人延べ宿泊者数対前年同月比の推移(2015年8月～2016年9月)



出所：観光庁「宿泊旅行統計調査結果」より
九州経済産業局作成